

ほけんだよら

10月



本校ホームページにカラーで掲載中！

埼玉大学教育学部
附属特別支援学校
保健室
R4.10.20

こころとからだの学習の
「体の部位の名称と働き」について、
「数の学び」と合わせて取り組んでいます！

10月のお話と体操をおこないました。

まず、9月の振り返りをしました。

頭の中の脳の仕事と部屋のお話を聞いたこと、♪ひらめき、

おしゃべり、耳をすます、見わたす、うなずき、ひかり、空間、痛み、筋肉運動、キュ、キュ、キュツ、キュツ、キュツ♪という唄に合わせて体操したことを思い出しました。

そして、10月…

私たちの体の中の10個あるところのお話です。

口の中の子どもの歯を紹介しました。

子どもの歯は、下から10本、上から10本生えてきます。その後、子どもの歯は大人の歯に生え変わります。



どうして、生え変わるのかというと、子どもは、あごが小さいので、小さな子どもの歯が、子どもの体に合っています。でも、少しずつ体が大きくなっていくと、あごも大きくなるので、大きなおとなの歯に生え変わって、数も増えます。

それから、この歯の生え変わりは、生きていうちに一度だけ。爪や髪の毛は、毎日少しずつ新しいものが生えてくるのに、歯だけは違います。不思議ですね。



おとなの歯に生え変わったら、私たちは、その歯を自分の命がなくなるまで使い続けることとなりますので、大切に使いましょう。

※お話は「小学館の図鑑・NEO 人間のいのちの歴史」を参考にして考えました。

というお話の後に、

♪ 下の歯、10本。上の歯、10本。足し算すると、20本。もぐもぐ食べて、よく噛んで食べて、大きくなるよ、不思議だな。♪
という歌に合わせて体操をしました。



「足し算すると」のところは、右手の指先と左手の指先を一本ずつ、くっつけます。難しいので何度か練習をしました。

【性に関する指導とのつながり】

食べ物をかみ砕く歯。その動きであごが動きます。あごの筋肉がたくさん動くとき脳へ流れる血液の量が増えて、脳を刺激します。そのため、脳の働きが活発になります。

また、食後の歯みがきでよく磨かれた歯を舌でさわってみると、とても気持ちがいいですね。気持ちよさがわかると、気持ち悪さがわかります。気持ちがいい体験をたくさん積んでいくと「快」がわかるようになり、「不快」に対して「いや」といえるようになります。その感覚が自分と他者の関係をより快適なものにしていく際の基盤となります。

リズムのある歯の動き(咀嚼)と歯を大切にする習慣(歯みがき)も、性の逸脱行為を回避する行動の基盤を作っているといえるのではないのでしょうか。そして、子どもを育てる大人たちは、すでに、こころとからだの学習に取り組んでいる、子どもが生まれたときから取り組んでいる、といえるのではないのでしょうか。